

郡山市の避難情報発令状況について

1 避難情報発令のための主な判断項目

- 1) 阿武隈川の水位（避難情報発令の数値化）
阿武隈川阿久津水位観測所の水位（発令基準を数値化している）状況
- 2) 上流域での降雨（雨量）状況及び水位状況
阿武隈川の上流部（白河市、須賀川市等）の降雨状況及び河川水位状況
- 3) 阿武隈川の樋門及びポンプ稼動状況
阿武隈川に流入する支川との合流点の樋門の開閉やポンプ稼動等による周辺地域の状況
- 4) その他
流域周辺の道路冠水状況や支川の水位状況（職員や住民からの情報）

2 避難情報の数値化

- 1) 数値化への経過
昭和 6 1 年の水害を受け、市民と連携しての情報伝達や避難体制を確立するため、平成 9 年に郡山市洪水ハザードマップ作成配布、配布後、平成 10 年 8 月の大洪水により、平成 12 年に、避難基準を阿武隈川の水位を目安とし数値化した。
- 2) 避難情報の種類と数値化の考え方
避難指示（命令）
阿武隈川の計画高水位が、8 . 6 5 m であることから、避難に要する時間 2 時間（避難に要する時間）前に発令するため、7 . 4 0 m とする。
避難勧告
住民に早めの避難を勧めるため、避難指示の 1 時間前とし、6 . 8 0 m とする。
避難準備（要援護者や車での避難が必要とする）
道路冠水の 1 時間前を避難準備の発令基準として、6 . 4 0 m とする。
（平成 1 0 年 8 月の実績により、阿久津観測所で 7 . 0 m 以上になると道路冠水が発生する可能性があることから。）

3 避難基準の周知方法

- 1) 洪水ハザードマップ及びビデオの作成
流域地区の町内会ごとに説明会を開催し、住民に内容の説明を行いながらハザードマップを配布し、また、小中学校及び公民館などにビデオを配布し周知した。

2) 避難情報水位橋脚表示及び避難案内看板の設置

橋脚に避難情報発令の基準等を表示し、また、洪水時の避難場所の案内表示板を町内会の各所に設置している。

4 現在の状況

1) 避難情報発令の数値化

避難情報の発令が早くなり、行政も住民も避難の時期が分かりやすくなった。

2) 住民の避難行動（危機意識が低下している）

行政が示している基準と住民が考えている基準に違いがある。

阿武隈川の大改修やポンプ場の設置などで、住民に安心感がある。

5 今後の検討課題

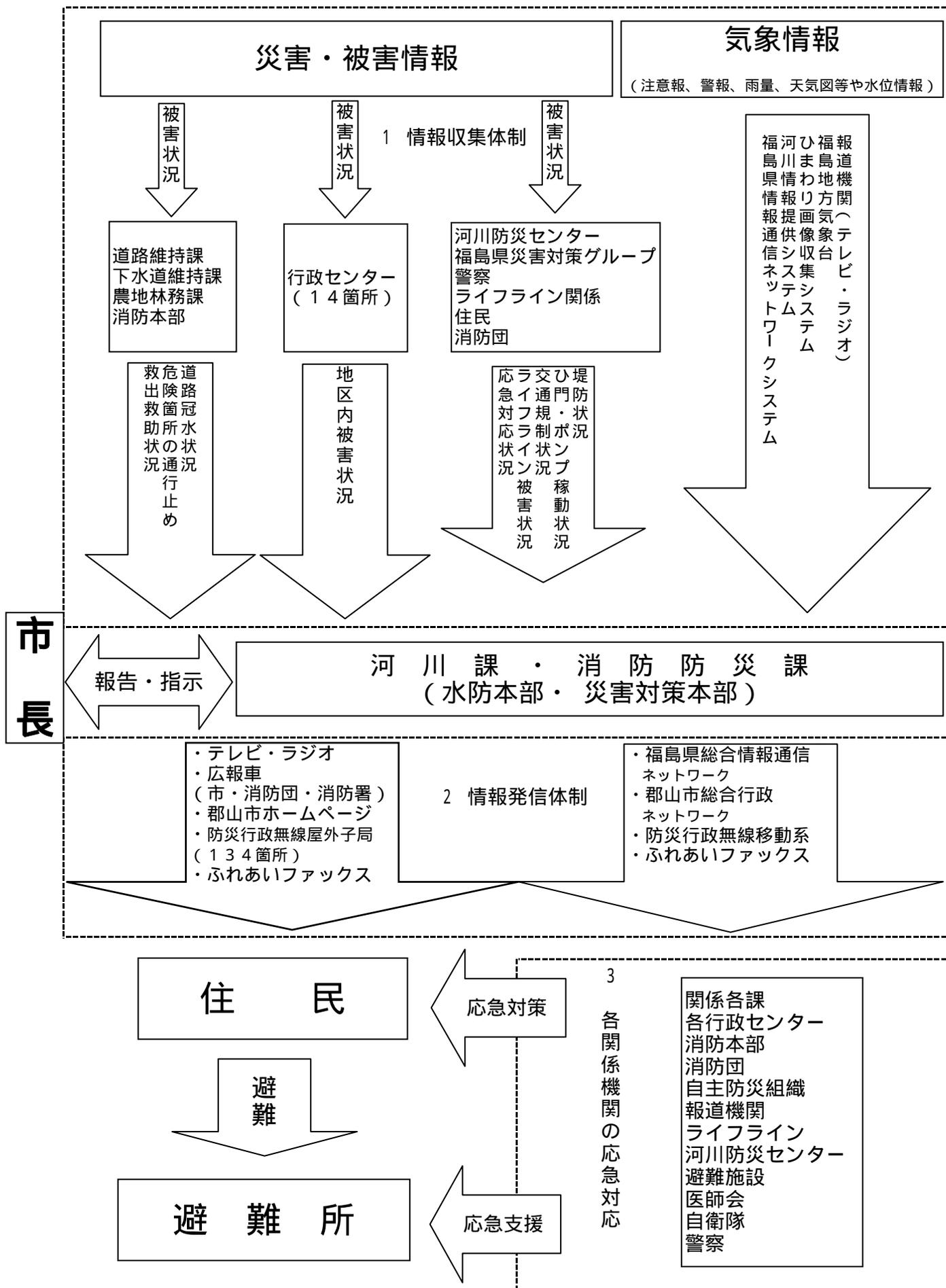
1) 現行の判断基準の推進

現在の避難情報発令の基準の重要性を住民に推進してゆく。

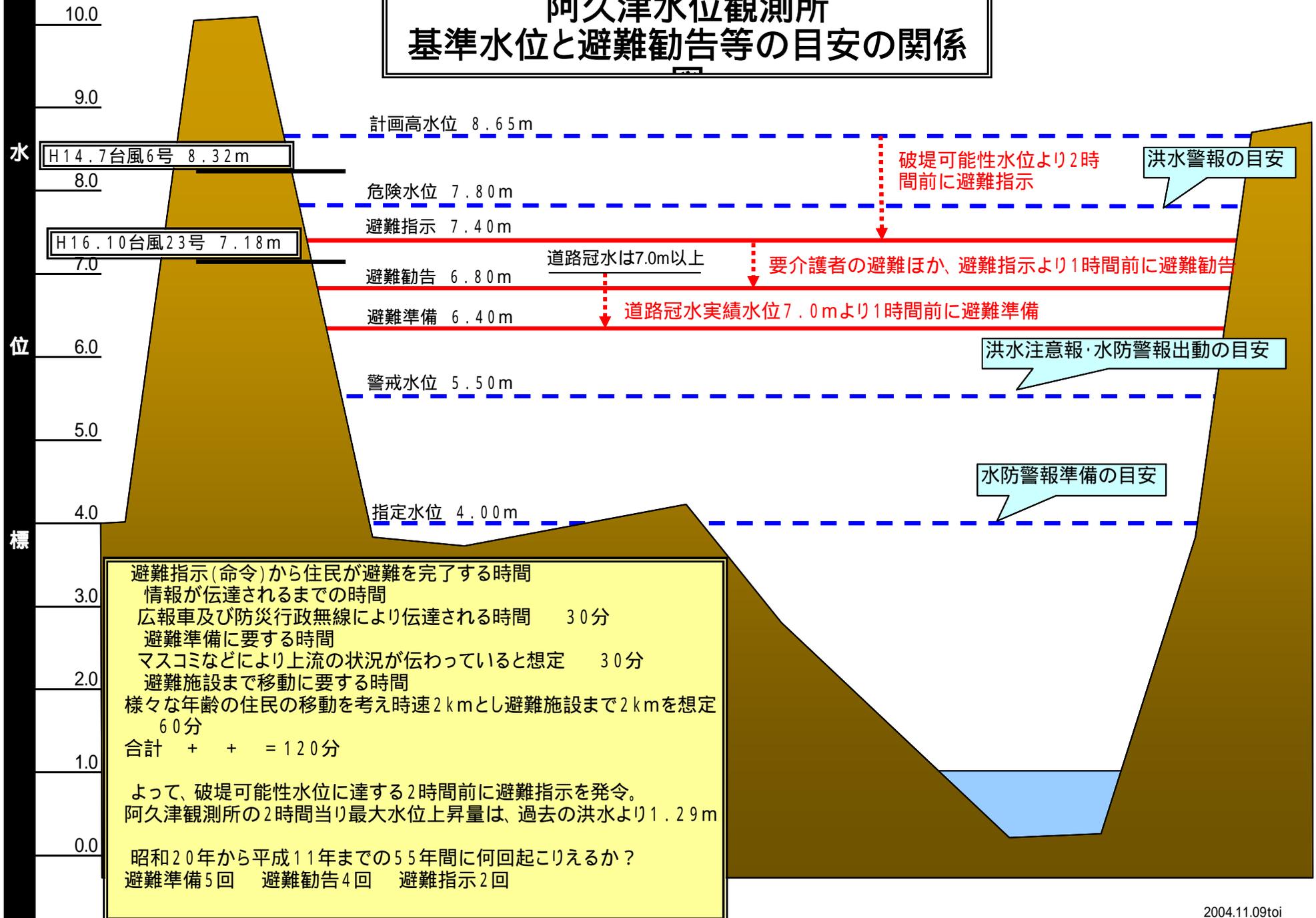
2) 内水氾濫に対応した細かい基準が必要

現在の基準は、外水氾濫を想定しているが、今後は、内水氾濫にも対応できる細かい基準の策定が必要になってきている。

水害時の情報連絡体制



阿久津水位観測所 基準水位と避難勧告等の目安の関係



避難情報水位橋脚表示



避難案内看板

